慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記
Sub Title	
Author	矢内原, 勝
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1967
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.60, No.6 (1967. 6)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19670601-0084

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

私はいま、アフリカ英語圏の一一カ国に日本の経済発展についての講演旅行の途上で、六番めのナイジェリアにいる。この号の原稿依頼と催促の手筈はすませてきたが、そんなわけで後事は遊部教授をわずらわせてしまった。

アフリカ諸国はそれぞれ独自の問題をもちながら、政府が経済開発を意欲的に進めようとしている点では共通なものをもつ。そしてこれはまた日本の明治維新以来の発展と比較される事柄でもある。そのなかで大きな問題の一つは国民の勤労意欲である。私は基本的には、黒人の労働供給曲線も通常の右上がりの形をとるはずだと思っている。しかし実際問題としては、日本人の眼には黒人の労働はすべてスロウであり、ことに現地に来ている日本人技術者にとって、これは耐えられないことであるらしい。機械が止まれば、声を枯らして走り廻わっているのは日本人であり、それをぼんやり見ているのが黒人労働者である。私でも、ホテルの受付に白人と黒人と二人並んでいれば、間違いが少ないだろうと思って白人のほうに行きたくなる。東と中央アフリカは白人の居住植民地であったから、政府でもホテルでも、なお多くの白人ならびにインド人が働いている。これに反して西アフリカではすべて黒人がやっているが、その代わりに能率が犠牲になっている。いずれにしても、他人ごとながら大へんだなあ、という感じである。忙しいけれども、日本に帰って経済学会委員をまたつとめようという、勤労意欲をおこしかけているところである。

（一九六七年四月三日、ラゴスにて、矢内原　勝）

昭和四十二年六月一日発行

© 三田学会雑誌　第六十巻 第六号

定価　二〇〇円（送料二円）

編集兼発行人　東京都港区芝三田二丁目二番地　慶應義塾経済学会　代表者　遊部久蔵　電話三田（453）二一一一　振替口座番号　東京四四〇五六

印刷者　東京都港区芝三田豊岡町八番地　図書印刷株式会社　木山康夫

半カ年予約購読料（送料共）　一二〇〇円
一カ年　〃　〃　二四〇〇円
御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

発売所　東京都高輪局区内三田綱町一番地　慶應通信　振替口座番号　東京一五五四九七